津南町
校務DX計画

令和７年３月２１日

１．校務DX計画

	現状分析・課題	解決策・想定スケジュール				
		令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度
学校における 業務のデジタル化	保護者との欠席・遅刻・早退連絡を完全デジタル化している学校は０％、児童生徒への連絡をクラウドサービスを用いた配信で半分以上デジタル化している学校は０％である。	保護者連絡のデジタル化を代表校で検討・運用		保護者連絡のデジタル化で運用		
学校設置者における 業務のデジタル化	教育に関わる公文書のデジタル化に関する規程を定めていない。	教育に関わる公文書のデジタル化に関する規程を策定			新ワークフローで運用	
次世代の校務デジタル化に向けた環境整備	ネットワーク統合と汎用のクラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの具体的な導入時期を設定している。	市町村システムとの統合を含めた県の新システム検討・設計	県の新システム 導入・運用			
生成AIの校務での活用	一部の教職員（半分未満）が生成AIを校務で活用している学校の割合は、２５％である。	生成AIについての事例収集、活用方法検討		活用方法の情報発信 ※国のパイロット校事業の実証結果等を含む		
クラウド環境を活用した校務DXの推進	教職員が校務用の端末を校外においてクラウドベースで使用できる環境を整えていない。	校内のロケーションフリーについての検討			校外のロケーションフリーについての検討	
Fax・押印の原則廃止、ペーパーレス化、不必要な手入力作業の一掃	Faxを使用していない学校が０％、保護者・外部とのやりとりで押印・署名がない学校が２５％、職員会議等の資料のペーパーレス化を実施している学校が７５％である。	事例収集と解決策の検討	活用方法の情報発信			

２．期待される効果

校務で利用する各種システムの活用により校務の効率化が進み、教育データを活用した児童生徒への指導や支援が充実する。
①次世代の統合型校務支援システムなど、校務で利用する各種システムの活用により、校務が効率化され、教員の校務事務が最適化している。
②教員は、校務データや学習データ等の効率的・効果的な活用により、個々の児童生徒にきめ細かな指導や支援を行っている。